

乗務員の業務等の見直しを考える①

早目出場・移動時間・付加時間の見直し!?

**例えば社員1分あたりの賃金は32円だが
全体で見ればなんと△3分で21億円にも!**

今回の提案では「3分前出場や5分間の付加時間ならび移動時間は労働時間としない」として、「働きやすさの向上を図る」と説明しています。「わずか3分・5分」と感じますが、会社全体で見るとどうなるのか?

<2021年3月賃金回答の諸元から>

- 平均基本給 **290,676円**
- 1時間あたりの賃金 **1,939円** ($\div 290,676円 \div 149.9 = 1,939.1\dots$)
- 1分あたりの賃金 **32円** ($\div 1,939円 \div 60分 = 32.3\dots$)

1分でわずか32円ですが、早目出場の3分で試算すると……

- 1乗務行路(8回出場仮定) **768円** ($32円 \times 3分 \times 8回$)
- 1年間に換算すると **192,768円** (労働日数251日 $\times 768円$)
【365日 - (公休52日 + 特休62日)】
- 乗務員全体の換算 **21億2,044万円** (1万1000人 $\times 192,768円$)
【JR東日本 運転士約6000人・車掌約5000人】

乗務の時間を更に拡大することを目的とする
見せかけの「働きやすさの向上」ではなく、

乗務員が「列車を安全に運行できる」体制と
真の働きやすさを求めることが必要です。